

# 新潟県生連

新潟県生活と健康を守る会連合会

〒950-0088 新潟市中央区万代1-2-6-403

TEL025-241-0288

一人はみんなのために  
みんなは一人のために

## 第45回全国大会 全生連70周年



左から吉田、倉島、青木、塩川、野本、野沢、斎藤（敬称略）

9月18日19日の2日間、東京台東区で全生連70周年第45回全国大会が行われ、新潟からは全国役員・新潟県連代議員として7人が参加しました。

●**話も顔も見える大会** 参加するたびに学ばされます。リモートを併用した2年前とは違い、全国の皆さんが一堂に会し、話も顔も見える良い大会でした。若い世代を意識的に積極的に幹部に育て、起用している東京。活動は立ち止まったら減るし、停滞してしまうと埼玉は越谷。

最も基本で会員に身近な班会の重要性を語ったのが、野本会長の発言です。片手間の活動では大変な人を支える力にならないと実感する大会でもありました。村上・齋藤正直

●**70周年までに必ず拡大!** 印象に残ったのは、「裁判は勝つこと、勝敗にとらわれていたが、たたかうことが大事だということが分かった」という、京都の裁判原告の発言。裁判を多くの人たちと一緒にたたかうことに意義があるということだと思いました。まさに、全生連運動の肝を実感から発言され、感動しました。

前大会より現勢を減らして迎えた今大会だったことは、しっかり受け止める必要があ

ると感じます。11月の全生連70周年までに、必ず拡大をやり切って祝えるようにしたいと思いました。 県連・野本 孝子

●**初めての全国大会** 各地の奮闘の発言、それぞれの発言者のキャラクターも相まって面白く、参考になった。特に東京(日野市)大茂さんには驚いた。生活保護を利用しながら、生健会の役員を頑張っている方の「(政治や物価高の現状では)いつ自死するかわからない状況だ」という発言には、彼のこれからが心配になった。 上越・青木 浩一

●**他県交流と40年前の知人** まず驚いたのは、来賓でのあいさつがなんと共産党の田村智子委員長だったことです。

夜の夕食会では、兵庫県の代議員と同席に。40年前の知人が兵庫県に住んでいることを思い出し、代議員に聞くと、その知人は新聞読者だが会員ではないと。そこで、代議員から電話してもらい、代わった私が説得して入会してもらったというおまけもありました。 新潟・塩川 達夫

呼びかけ

# 「選挙に行こう」「自民党政治は終わりに」の対話を広げ、 政治を変えて要求を実現しましょう

石破内閣は、「賞味期限」が切れる前にと、10月27日に衆議院選挙を行います。「選挙に行こう」「自民党政治を終わらせよう」と知り合いに声をかけ、政治を変えましょう。

新潟県内の小選挙区数は6から5に減り、選挙区域も変わります！

## 衆議院選挙4つの大事

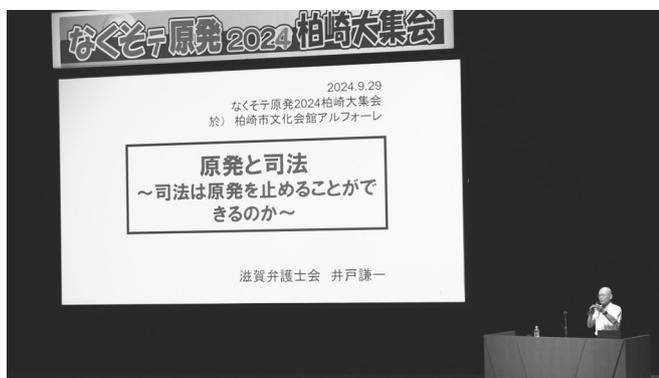
- ①「裏金」事件、旧統一協会との癒着に無反省の自民党に審判を下し、清潔な政治を実現しよう
- ②大企業へは「思いやり」、国民には増税を押し付ける政治を変えよう
- ③消費税5%引き下げ、生活保護・年金引き上げ、医療・介護の負担を軽くし、補聴器支給、学校給食無償化、健康保険証の廃止を中止するなど、要求を実現しましょう
- ④「戦争をする国づくり」ストップ、憲法を生かして平和な国づくりをすすめる

すべての会員が選挙に参加して、要求を実現しましょう

## すべての会員が選挙に参加して、要求を実現しましょう

- (1) すべての班で班会を開き、「私の要求」を出し合い、「全生連の衆議院選挙要求」について話し合しましょう。
- (2) 会員が10人以上の人に「投票に行きましょう」「自民党政治を終わらせよう」との対話を広げましょう。直接請求署名の受任者になって署名を集め、新聞・入会を勧めましょう。
- (3) 会員が知り合いを誘い、地域で「お茶のみ懇談会」（小集会）を開き、暮らしと選挙について語り合しましょう。
- (4) すべての会員を訪問し、選挙活動への参加を呼びかけましょう。

# なくそテ原発2024柏崎大集会



県内各地の守る会が、9月29日に柏崎市で行われた集会に参加しました。

日本で初めて原発運転差し止め判決を出した井戸謙一・元裁判官（現弁護士）の講演や佐々木寛・新潟国際情報大学教授が、柏崎刈羽原発の再稼働をめぐる情勢報告。

そのほか、柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う県民投票条例制定を求める直接請求署名運動が10月28日に始まることから、集会では「県民投票で決める会」からの訴えがありました。